

### 第34回 右手峠～大倉山

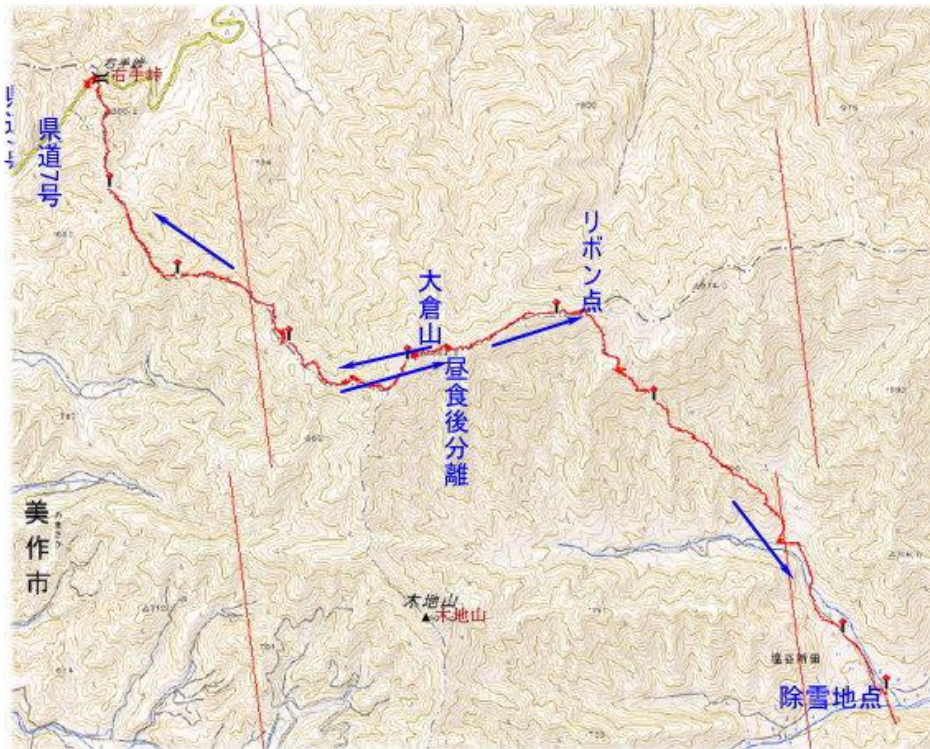
平成27年1月12日(月)雪

行程

右手(うて)峠 9:00 - レスト(大倉山展望) 11:27 - 大倉山 12:45 昼食  
13:15 二手分離 - リボン点 13:51 - 林道 15:30 - 除雪地点 15:48

隊員

船越 仁 角原 覚 角原鶴子 岡本紀美子 佐々木順栄 佐々木靖昌 小林祐美



この日は大倉山を越えて、前回のリボン点までの約3kmをピストンする予定でした。1月の3連休中に50cmを越す積雪があり、カンジキを付けてもヒザ上のラッセルが続きます。それでも元気の良い新人隊員のお蔭で、高度を上げながら進みます。ところが樹林帯の尾根にもかかわらず、予期せぬ

数か所もの大岩が遮り、乗り越えはちょっと無理です。雪庇の張り出す岡山側を避け、急斜度の鳥取側をトラバースしながらの通過に随分時間を食われました。最高地点の大倉山で少し遅い昼食を摂りながら、ここで二手に分かれる決断をしました。私を含めた3名はあと650m進んでリボン点を目指します。前回と同じルートを下るのは無理ではありません。残り4名のUター

ン組も、幾らか締まった踏み跡が未だ残っている筈です。前進組には少し重くなり始めた深雪ラッセルですが、下降なので頑張れます。赤リボンにタッチして下山し、カンジキを外す間もなくUターン組のお迎え車が到着しました



### 第35回 右手峠～滑谷～久岳～出逢い地蔵

平成 27 年 1 月 24 日 (土) 晴

行程

右手峠 8 : 55 - 3 等滑谷 10 : 42 - 送電鉄塔 12 : 23 - 4 等久岳 13 : 09 -  
出逢い地蔵 13 : 18 - P1 14 : 10

隊員

船越 仁 角原 覚 岡本紀美子 佐々木靖昌



この日、県道は除雪されていますが、峠道はガリガリに凍りついていました。ツボ足でも大丈夫かなと踏み込みましたが、やはりモナカ状態ですので、最初からカンジキを装着して稜線を辿りました。本日の県境稜線は標高 700m 前後の比較的低山帯ですが、地形図 (1:25,000) 上のコルは 23 箇所もある上に煩わしいヤブ漕ぎが続き、視界も乏しく、とても地

味な稜線歩きです。ただ、低山故に楽なのは、山陽と山陰を結ぶ旧往来の峠道がアプローチに使えることです。送電鉄塔下で、やっと視界が開けた場所に出て来ました。昼食を終

える頃、後方でカターンカターンと大きな音がしていましたが、大きなツララが落ち始めたようです。非常に危険なので、急ぎ退散としました。今日の県境稜線は右手峠から草野原峠迄の 5.6km と地方道下山 1.8km でした。



### 第36回 黒尾峠～崇山～草野原峠

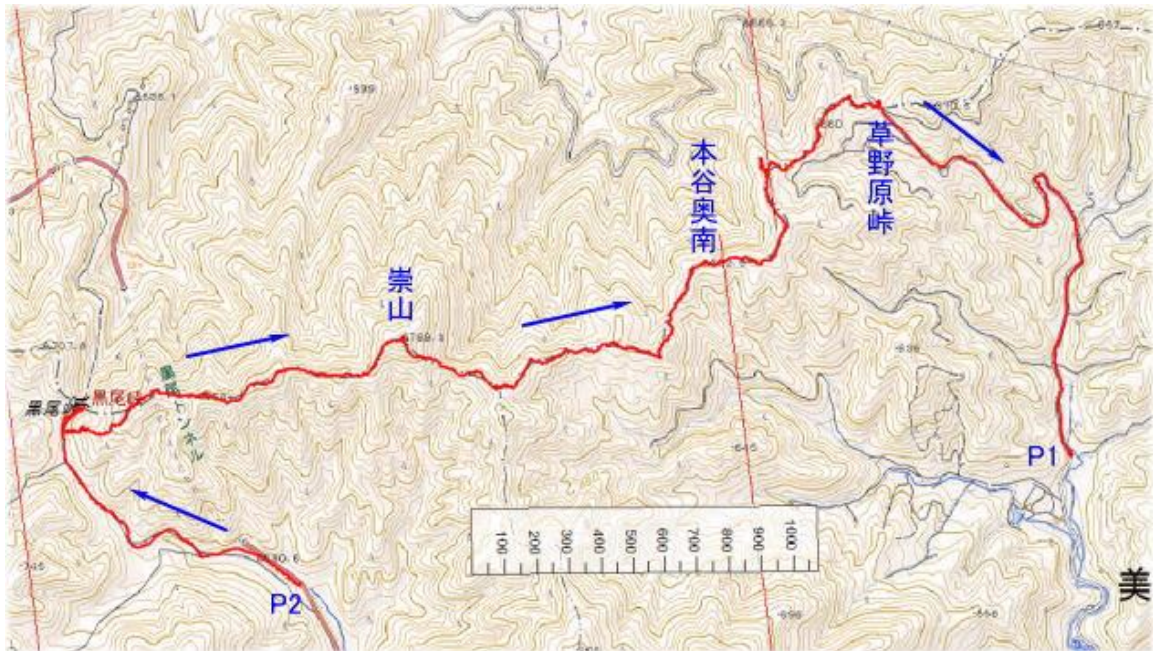
平成27年2月1日(日) 雪

行程

黒尾トンネル 9:25 - 黒尾峠 10:09 - 崇山 11:36 - 昼食 12:04 ~ 54 -  
本谷奥南 13:46 - 草野原峠 14:45 - 駐車場所 P1 15:44

隊員

船越 仁 角原 覚 角原鶴子 岡本紀美子 佐々木順栄



黒尾トンネル入口手前から、旧峠に続く林間道に踏み込みました。これまでの雪に新雪が30cm程積もっており、交代で進みますが、朝の新雪は軽いです。緩やかに約1km上った峠は、切り落としの石垣壁の為、少し戻ってスギ林に取り付きました。こんなところによくぞ植林したものだ、と感心するほどの急傾斜地ですが、ここで威力を発揮するのがアイゼン代わりになるカンジキです。この日の核心部、高度70mを登攀して稜線に出会いました。稜線の新雪はこれまで以上に深く、倒木やミニ雪庇、ブッシュに喘ぎながら4等三角点崇山に到着しました。気高さを感じる山名ですが、その由来は分かりません。この日は

いつもより時間を要した行程でしたが、前回と同じ草野原峠に降り立ちました。岡山県には山陰山陽を結ぶ国道トンネルが6本ありますが、本日の乗り越えで最後の1本も終了しました。次回以降は国道から次第に離れ、難関の深山区間が待ち受けています。



### 第37回 黒尾峠～那岐山

平成27年2月8日(日) 雪

行程

P2 8:19 - 黒尾峠 8:42 - 3等奥本 9:09 - 古黒尾峠(大地蔵) 9:22 - 石休  
10:50 - 昼食 12:13 ~ 38 - Aコース分岐 13:09 - 那岐山頂 13:38 - 三角点  
13:52 - P1車 15:18

隊員

船越 仁 角原 寛 角原鶴子 岡本紀美子 佐々木順栄 佐伯 学 小林祐美



前回と同じ旧黒尾峠から西進します。雪はほぼ半分が減っており、若手が加わってくれたこの日は、最後尾についても遅れがちでした。三等三角点奥本を過ぎて暫くすると、古道黒尾峠のお地蔵さまに出会いました。一般の峠地蔵に比べると随分大きなお地蔵さまです。

今回の県境はほぼ全体が登りで、急斜度の約100m登高が2ヶ所ありました。きついけれど、登りきって胸を撫で下ろしました。やがて樹氷の花咲く、広くて明るい稜線台地に出ました。固く締まったトレースに出会い、今年初めて人の気配のする山に着いた感じでした。

しかし、予報通りの第1級寒波を伴う寒冷前線通過は時間の問題です。頂上も風雪が

強くなり始め、稜線を黒雲が覆って来ました。頬を打つブリザードを逃れ、下山登山道Cコースに踏み込みやれやれです。

この日の歩程はアプローチを含め8.7km、7時間でした。



### 第38回 那岐山～物見峠南 730 ピーク

平成 27 年 2 月 12 日 (木) 雪

行程

那岐 C コース 第 3 駐車場 9 : 03 - 那岐三角点ピーク 11 : 15 - 滝山四阿 12 : 03 - 岡鳥 14 : 15 - 加智 15 : 27 - 鉄塔巡視路分岐 16 : 21 - 道路 17 : 04 - 車 17 : 16 隊員

船越 仁 角原 覚 角原鶴子 岡本紀美子 佐々木順栄



県境繋ぎの為、4 日前に下った那岐 C ルートを登りました。稜線の三角点峰台地では西風が強く、視界はガスと地吹雪に遮られています。ここからはノントレースとなり、風裏でアイゼンをいつものワカンに履き替えました。これから向かうのは、那岐連山滝山への縦走コースと少しだけ重なりますが、この時期に殆ど人は入りません。ホワイトアウトした広い台地ではコンパスと地形図、そして GPS で方向を定め、幅広急斜面を右に左に歩を振りながら慎重に下りました。少しずつ尾根が狭まれば、進むべき道も見えてきます。

滝山分岐の四阿で那岐連山にはお別れし、分岐した北上県境尾根の下降が始まります。振り返ると、やや天気が回復し、那岐山が遠くになっていました。長い長い下降です。下降とはいえ、ゴジラの背のような登りが次々に連続し、今

年いちばんの辛いアルバイトになりました。

本日の歩程距離は 11.2 km と最長で、8 時間 20 分の行動でした。



### 第39回 桜尾山～物見峠

平成27年2月15日（日）小雪

行程

阿波最終除雪点 9 : 12 - 県境 11 : 11 - 桜尾山 12 : 38 - 物見峠 15 : 50 - 除雪地点 16 : 21

隊員

船越 仁 角原 覚 角原鶴子 西崎博子 岡本紀美子 佐々木靖昌



前回とは逆回りで、津山市阿波落合の除雪道路最奥の尾根に取り付きました。新雪が20cm程加わった急斜度の直登で、約2時間を要して400mの高度を上げ、県境稜線に出ました。

この日は陽射しも望める予報でしたが、小雪の1日になりました。そして早朝には軽い雪質も次第に重くなっていきます。何とか頑張って午後1時前には桜尾山に到着し、少し遅い昼食となりました。

中央分水嶺踏破については、日本山岳会が創立100周年記念行事として全国支部総がかりで行なわれました。私たちゆき

んこ隊は鳥取岡山県境に限るとはいえ、積雪期にそれを行ない3シーズン目です。残り7～8区間を今冬で完結させよう、と気負ったことが今日の反省点です。

本日の歩程は11.1kmを8時間10分。これで十分なのです。

